

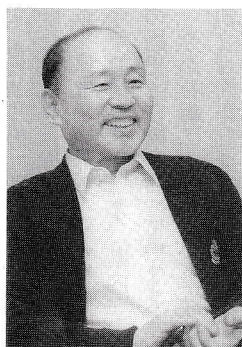
第26回総会・懇親会＝6月30日(金)

三木卓さん(70期)のお話も楽しみに、ぜひ誘い合って、交通至便の会場へ積極的に参集を！

当番幹事78期の同期の方々、また前後の皆様のご協力を！

—— 出欠のご返事は6月15日までによろしく ——

(同封はがきに50円切手を貼付して、出欠とご近況を記入し、至急ご投函ください。)



△読売新聞社・提供▽

◎三木卓氏のお話 引続いて懇親会

三木 卓さん(作家・詩人)の経歴

一九三五年東京生まれ。
本名・富田三樹。

満洲から静岡へ引揚げ、
静岡(70期)・早稲田大
学露文科卒業。詩・小説・
エッセー・翻訳・評論・
童話と幅広いジャンルで
活躍中。

議題・平成十一年度事業報告、会計報告。

平成十二年度事業計画、予算。ほか

会費・五千元

(年会費の三千元は当日受け付けますが、
この会報に同封の振込用紙によりご納入をお願い
しあげます。)

電話〇三―三二七三―一四〇九

ひょうご倶楽部・東京

(さくら呉服橋ビル8階)

場所・東京都中央区八重洲一丁目三

日時・六月三十日(金) 午後六時より

平成十二年度 関東同窓会総会・懇親会

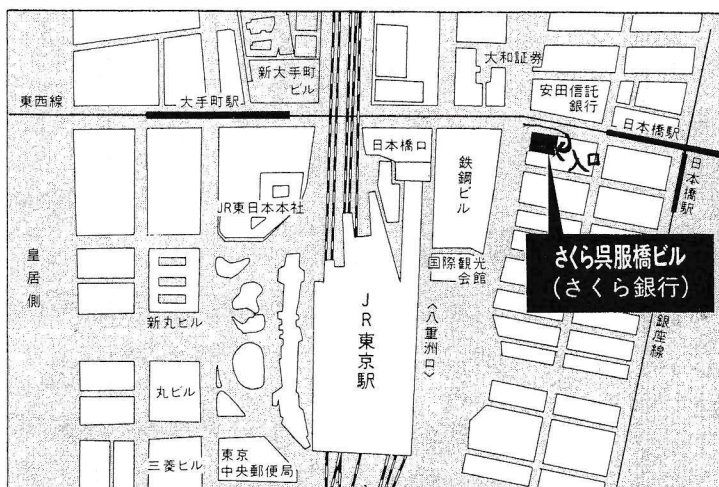
静中・静高
関東同窓会
会報

静中・静高関東同窓会
会報 第49号
平成12年6月1日発行
編集人 上杉重吉

昭和42年	日氏賞「東京午前三時」
45年	高見順賞「わがギリギリランド」
48年	芥川賞「鷗(ひわ)」
59年	野間児童文芸賞「ぼたぼた」
61年	平林たい子文学賞「駈者の秋」
63年	芸術選奨(文部大臣賞)「小咄集」
平成9年	谷崎潤一郎賞「路地」
9年	路傍の石文学賞「イヌのヒロシ」
11年	紫綬褒章
12年	読売文学賞「裸足と貝殻」

ひとりひとりのご協力を！

- ・総会や同期会などの会合には億劫がらずに出席し、楽しい一刻を持ちましょう。
- ・年会費の拠出者が年を追って減少し、さびしいことです。関東同窓会の運営も難しくなってきました。



- ・JR東京駅の八重洲口から徒歩5分。
- ・地下鉄東西線・銀座線の日本橋駅(A3出口)から徒歩2～3分。
- ・呉服橋交差点東南角のさくら呉服橋ビル(さくら銀行)、エレベーターで8階へ。

哀悼 奥澤徹閑東同窓会会長

静中・静岡閑東同窓会会長奥澤徹氏(59期)は、3月24日急性大動脈解離のため急逝されました。通夜は3月28日、密葬は3月29日に、また葬儀・告別式は(株)勝山塗装工業所社葬として4月15日午後1時から新横浜奉斎殿で執り行われました。



長い間閑東同窓会のためご尽力くださった奥澤さんを偲び、多数の会員が参列してご冥福をお祈りしました。
安らかに、奥澤さん。

奥澤さんに捧げる弔辞

奥澤さん、あまりにも急な、あまりにも早い旅立ちで、驚きと動揺の中にうずもれて、いまだに現実感を得ることができません。

静岡県立静岡中学校の創立は明治十二年、戦後の学制改

たことだと言いながら、集う人の心をなごませてくださいました。

人とのつながりを大切にしておられた奥澤さんのお人柄が、夕焼けの海の向こうに望む富士山、ふるさととの名山のように、私たちの心の中に刻み込まれています。

今はただ、急いで行かれた向こうの世界でゆっくりくつろがれ、安らかな笑顔で私たちを見守ってくださいよう祈るばかりです。

奥澤さん、長い間、本当にありがとうございました。
一緒によく歌った静中・静高校歌をくちずさんで、お別れしましょう。

岳南健児一千の
理想は高し富士の山
八面玲瓏白雪の
清きは我等の心なり

全国の三万人に及ぶ同窓会員を代表し、謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。

平成十二年四月十五日

静中・静岡同窓会

会長 川村 春雄

△代読：閑東同窓会副会長

上杉重吉

奥澤徹会長の急逝を悼む

77期 清水 雅尚

それはまさに突然の訃報でありました。前々日電話で話をして4月3日に会いましょうと約束したばかりであったから。電話口でエッと云って次の言葉が出て来ない、何であんなに元気な人がという思いが実感でした。

思えば奥澤さんのおつきあいはたかだか10年ほどではなかったかと思えます。閑東同窓会、ゴルフ会、そして江の島会、しかしそれぞれに濃密な出会いが思い起こされます。

外見は銀髪のさつそうとした紳士ですが中味は豪放磊落、気のおけない方でした。若い連中の中にも入って来て斗酒なお辞せずの酒豪でした。

大石巖前会長を継いでの閑東同窓会会長は2年足らずの間でしたが同窓会をどうしたら盛んになるか、後輩の話にもよく耳を傾け、その成果も序々に実りつつありました。

閑東同窓会の他、「江の島会」「ゴルフ会」の世話役を長い間していただき、事務局

を自社内に置いてもいただきました。これらの会が続いてこれたのもひとえに奥澤さんのご尽力のおかげでした。残された我々は茫然とする思いですが、何とか力を合わせて良き伝統を残して行きたいと思っております。

奥澤さんは早稲田大学の理工学部を卒業された戦後の混乱期に、日本フォード・日本飛行機などに勤務、やがて岳父の会社(勝山塗装工業所)に入られて会社の発展に努められ、大和、東松山工場と拡張して現在の基礎を築かれました。

他面、業界団体やロータリークラブなどの会長を長期にわたって引き受け、社会貢献に努められました。

急病に倒れたのはまことに無念だとは思いますが、長男徹也さんという立派な後継者を育てられていることは何よりではないかと思えます。最後に奥澤さんの閑東同窓会にそそがれたご努力に深く感謝申し上げると共に、心からご冥福をお祈り申し上げます。

◎お願い◎

昭和50年春、同窓会本部より母校創立百年祭に備えて支部発足の要望があり、42期宮澤次郎、53期奥野孝・月見里得知郎等の諸氏のお世話で関東同窓会が誕生しました。

宮澤氏が十四年間に、第二代大石巖氏(53期)が九年間、そして奥澤徹氏(59期)が第三代会長として夫々会の発展のため大変な努力を続けてくださいました。

しかしながら、奥澤氏の急逝——会報46号P.4の「会長就任の辞」、48号P.11の「切実なお願い」を再読されて、会の将来についてのご意見・ご提言をお寄せください。

会報も次回が50号となりますので、会員皆様の「こゑ」を特集したいと思ひます。「総会出欠」はがきを活用され、ぜひよろしくお願いいたします。

Ⅱ各期幹事一覧Ⅱ

幹事が変更の場合は事務局までお知らせください。特に幹事未定の期は至急選出してご連絡を!

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----------------|------------------------------|---------------|--------------------|---------------|---------------|----------------|--------------------|---------------|------------|---------------|----------------|---------------|----------------|--------------|--------------------|---------------|--------------------|-------------------|---------------|---------------------|---------------------|---------------|----------|---------------|----------|-----------|
| 43: 西沢純三 | 44: 高橋真一 | 45: 鈴木弥門・田附敏三 | 47: 杉山栄一 | 48: 原崎進一 | 49: 菅沼 栄・杉本久敏 | 50: 九尾文治 | 51: 佐伯正剛 | 52: 服部雅雄・廣川 聰 | 53: 月見里得知郎 | 54: 安東哲夫・居初良雄 | 55: 相川富士雄・法月重雄 | 56: 清水逸郎・萩原達雄 | 57: 岩井平一郎・影島利邦 | 59: 青木静男・原 淳 | 60: 上杉重吉・堤 崇・山本雅之助 | 61: 大石次男 | 62: 63: 木下景一 | 64: 65: 野沢正憲・渡辺素夫 | 66: 田中俊男 | 67: 朝比奈正三・小杉 弘・鈴木敏行 | 68: 雨宮明生・荒谷じつ子・吉崎英輔 | 69: 宮崎吉英・山本龍男 | | | | |
| 70: 大高原之丞・大長 智 | 71: 児玉文男・後藤弘枝・海野幸雄・篠原 直・浦田 彰 | 72: 桜井亮介・深田 均 | 73: 山中博司・山梨由記・後藤孝子 | 74: 佐藤鐘司・藤原経史 | 75: 後藤正義 | 76: 酒井孝太郎・鈴木 浩 | 77: 野方重人・三浦位通・清水雅尚 | 78: 鈴木藤男 | 79: 上田尚亮 | 80: 吉野卓史 | 81: 鈴木素明・萩原英昭 | 82: 堀内淳司 | 83: 山本雅敏 | 84: 浅川祥子 | 85: 池田幸司・深津俊郎 | 86: 成岡和美・井出慎吾 | 87: 薬科名雄・石川嘉和・高橋 宏 | 89: 鳥巢 修・新村暢宏 | 90: 荒井千明・米澤宣行 | 91: 村松秀明 | 92: 山野直文 | 93: 岡村幸彦・大羽章弘 | 94: 松野敦子 | 96: 奥田規之・細沢 優 | 97: 藤森 尚 | 107: 小泉輝武 |

その後の同窓会活動

(平成11年12月・12年4月)

◇第20回印高会ゴルフ会

11年12月1日(水)

東松山カントリークラブ

参加者: 22名

優勝: 望月芳郎(68期)

2位: 渡辺郁馬(68期)

3位: 岩瀬順郎(68期)

初冬の快晴の中、最長老の西沢純三さん(43期)をま

じえ和気あいあいの内に回つて来ました。今回は上位3

名を68期同期で独占。

◇役員会

4月12日(水)

神田の野方法律事務所 10名出席。奥澤会長急逝により今後の運営などを協議。

第53回「江の島会」総会

開催のお知らせ

今年とは別掲のように長い間

お世話をしていただいた奥澤

徹さんの急逝を悼み、「偲ぶ

会」を兼ねて次の要領で開催

いたします。戦後すぐから始

まった江の島会、長い伝統を

絶やすことなく続けたいと思っ

ております。多数のご参加を

お待ちしております。

お持ちしております。

一、九月三日(日) 正午開会

一、江の島 恵比寿屋旅館

一、連絡先: 江の島会事務局

67期 黒田秀幸

TEL・FAXとも

〇四五―二六一―五一八一

なお、詳細は例年通り八月

上旬ごろご案内を発送します

が、初参加の方は期別、住所、

氏名、電話番号を早めに事務

局まで連絡下さればご案内を

お送りします。

同期会 など

五一期

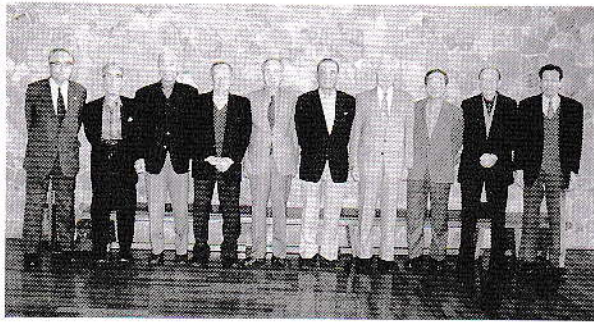
今年は東西合同で四月四日(火)、静岡・東京の中間点が宜しかろうというので函南の畑毛温泉・大仙家(だいせんや)で一泊の会合を開いた。

集まる者10名、名司会者の広瀬毅君の進行で約3時間の楽しい一時を持つことができた。今回は出席者一同の心を打つスピーチが出た。

その第一は山村卓彦君の参戦談である。山村君は陸軍の飛行将校として爆撃機(四式重爆)に搭乗していたが、昭和19年には海軍航空部隊に編入された。海軍航空部隊の中の陸軍機とは奇妙な話であるが、海軍機が消耗し少数になったので、陸軍機の応援を頼んだ形になり、山村機はしかも、雷撃機として参加した。大分海軍航空隊で雷撃機としての訓練を積んだ後で台湾の高雄飛行場からレイテ沖海戦に向かっ陸海軍合せて17機が出撃した。山村機は八〇〇kgの魚雷を抱えて出撃し、敵の重

巡を撃沈させた後、敵の銃撃をかい潜って傷だらけになりながらも

フィリピンに帰還し、胴体着陸で奇蹟的に生還した。この17機の中で生還したのはたったの2機であった。山村君の



言葉を借りると「私は悪運の強い男」だそうである。この話は仲間うちで話すのは今回が初めてとのことだが、こんな激しい戦争体験を何の力みもなく淡々と語るのに一同深い感銘を受けた。この会では聞かれない貴重な戦争秘話

である。

感銘深いスピーチの第二は渡辺功君の台湾の高砂族出身の兵士の話である。鄭春河氏の書いた「嗚呼 大東亜戦争」と「救国の道」が紹介された。著者の鄭さんは日本人意識が高く、特に教育勅語を精神の拠り所とするなど日本人として生きたことを誇りに思っている。現在のわが国民の精神の荒廃を恥ずかしく思う次第である。

第三は田中賢一君の特攻隊の慰霊に関するものであった。田中君は(特)特攻隊戦没者慰霊平和祈念協会のお世話をしており、席上にて「遺書遺詠に偲ぶ特攻隊員の心情」というパンフレットを配付して解説があり、出席者一同に戦後は未だ終わっていないとの印象と深い感銘を与えた。

最後に校歌「岳南健児一千の」を4番まで高らかに歌い、再会を約して閉会した。

当日の出席者は写真の左から田中賢一、伊藤眞吉、鈴木義一、広瀬毅、山村卓彦、橋本祥一、狩野安彦、林盛次、渡辺功、原崎郁平である。

(原崎郁平)

六〇期

入学六〇年目の同期会

中学入学六〇年目(卒業五五年)の四月十四日、毎年この時期にやっている同期会が今年は静岡駅前「ブケ東海静岡」で開かれた。

同期二五〇名の入学者の内、五三名が亡くなった。空襲で亡くなった人もいるが、戦死者はいない。

同窓会名簿に記載されている二〇〇名の内、連絡できない人が二六名、通知をした人一七四名中、当日の出席者が五五名、欠席者九〇名、返信のない人二九名であった。この状況は他の期と比べてどうだろうか。

例年、遠隔地から参加する誰かがいて座が盛り上ったが、今年はそれもなく、関東からの参加者も例年より少ない九人(井田・上杉・笠間・川口・小林・澤田・堤・萩原・原田)だったのは、やはり寄る年波ということか。

会は、同期では数少な



い空戦体験者で、一時は戦死という噂もあった予科練第一期の澤田祐夫(元空将補)君の乾杯、幹事才茂譽英君の挨拶が始まり、歓談を尽くし、恒例の杉本武君の音頭で校歌を合唱し「来年はたーんと集まろうぜ」ということで会を締めた。(笠間達男)

六 四 期

今年の新年会は屠蘇気分の醒めた二月十日に、田町の「道灌かがり」で開催した。従来の新年会は十人以下だったので小さな部屋を予約していたら、何と今年は二十一名の友が出席してくれて、世話人は嬉しい悲鳴をあげ部屋の変更を申し入れてなんとか収まり、多少窮屈ながら話が身近に聞けて良かったと自己満足。

会は病氣療養中の岩本吉雄君に変わって、佐野旭君の司会で始まり、静岡より上京してくれた近藤昭蔵君の乾杯で幕をあけた。名波倉四郎世話人代表の挨拶のあと、アルコーに入るとつれ、五十年の昔にタイムスリップ、おれっち、

お前のお国訛りで会場は爆笑。例の如く三分間の近況報告……益頭尚文君の光明天皇謀殺論には皆、感嘆す。特筆すべきことは卒業以来実に五十一一年ぶりに顔をみせた酒井久君（卓球部主将）が半世紀の経し方を淡々と語った。東京の空の下、吉祥寺と下北沢、電車で二十分位の所にお互い

住んでいながら何と遠かったことだらう。卓球部仲間の小沢渉、大村達郎、山下啓也君等が他界し、残ったのは鈴木明郎君と酒井久君と小生だけ。

生きている内に一度会いたいとおもっていたが再会でできて感激だった。

藤田栄君の発案でヒマラヤの山中に作った学校を見学に行く旅に八名の友が参加したが、その一人鈴木明郎君が道中談を身振り手振りを交えながら、言葉の通じない人々との会話でも理解しあえることがあると話した。同行の吉井駿亮君は高山病にかかり、ついで風邪で本日欠席は残念である。お互い年を経ても益々元気で健康な六四期生の初会合であった。

出席者：渡辺宏一、杉本哲、長谷川直和、蛭川博之、仲野実、八木綱三、永田進一、村上喜代二、長島健、遠藤栄、桜井富士雄、松下一男、栗田行雄、岩本吉雄、野澤正憲。静岡の石原良昭君より差し入れ、黒はんぺんと玉葱のフライを特別料理で出してもらった。予定の時間をはるかに過ぎたが、岳南健児を四番迄

唱して別れを惜しみながら各々家路についた。

（付）近藤博之君が袋井市より四月十八日、お孫さんの待つ第二の故郷ブラジルに旅立った。故原田美津男君の奥さんが、闘病中の原田君の看病生活を書いた「医食同源と霊界」という本を文芸社より出版されました。（野澤正憲）

六 四 期 第 31 回 ゴ ル フ 会

四月二十六日、小田急西富士GCに二十五名が参加して行なわれました。

今まで一度も雨に祟られた事がないゴルフ会、と本誌で自慢したのはつい半年前でしたが、今回は朝から生憎の小雨。それでも流石と言わせる腕前を披露したのは渡辺進式君、89で回って見事ベスコロ。優勝は仕事もゴルフも堅い山本和彦君（ネット77）、前回カムバック賞の渡辺宏二君がグロス90で準優勝、同ネットの蛭川博之君はハンデ差で三回目の準優勝楯を手に来る残念。

一年間の闘病後元氣な



姿をみせた岩本吉雄君、復帰戦にはキビシイ天候でしたが、ワンラウンド出来たことにまず満足。

栄えあるブービー賞の石原良昭君は、初参加の村松敏雄君の絶不調による大タタキに助けられたと、パーティー席上では彼に感謝感謝の弁。

また、仲間として常に参加して頂いている大石次男兄（61期）のご案内で、同期の

清水照彦兄も3期若返って今回参加……偶々、今日のパートナー神谷武男君と同郷の出身である事がわかって話はずみ、また一つ同窓の輪が広がったと幹事は密かに喜んでます。

参加者は前記十名の他、井上公司、漆畑茂、漆畑輝夫、小川哲司、小沢義郎、風間政彦、川口実、佐野旭、塩津博義、鈴木高保、時田勝博、永田進一、野澤正憲、増田誠男、村上喜代二。（佐野 旭）

六 六 期

卒業五十周年記念同期会

NHK大河ドラマ「徳川三代」に因んだ葵祭り恒例の静岡祭りで賑わう四月二日、卒業五十周年記念大会が「ペルパレス鷹匠」で開催された。

ご招待の恩師七名中、八十島、湯原、渡辺のお三方のご出席を頂き、合わせて約八十名、流石五十周年記念に相応しい賑やかな会合となった。関東支部からも二十七名と多数の参加があったことは特筆に値する。

地元幹事諸氏の肝入りで記

念行事の目玉は、卒業同期の「医者」八先生による講演「人生八十年時代をどう生きるか——これからの健康管理について——」……それぞれ専門も、内科・外科・整形外科・循環器科・脳神経外科・皮膚科・産婦人科・歯科と至れり尽くせり、さながら六六期総合病院の感。一人一人の専門分野について興味ある話、同期の気安さでなければ聞けない内輪の話、予定をはるかにオーバーして腹の減ったことも忘れて、全員が身につまされて聞き入った。

各支部の活動状況に関して関東支部については河守君が報告した。記念撮影・物故者に対する黙祷・来賓祝辞・乾杯のあと、祝宴に入った。あちこちになつかしい顔を求めて大小の輪ができて、瞬く間に時は過ぎた。

この年になると、元気なうちにやりたいことはやっておこうと思う。こうやって旧友に会って、気持ちは子供のころに帰っていることに気づく。そして、腕白だったあの頃に帰って、忘れかけた静岡弁がなつかしかった。

楽しい一日を企画してくれた地元幹事諸氏に、改めて御礼申し上げ、また今後ともよろしくお願い申し上げます。
(藤原隆二)

六七期

67友楽会の集い

昭和26年卒業(67期)の有志で関東近県に居住する皆ての紅顔の美少年も、写真(でははつきり判らないと思いますが)の通り、今では秀でた眉には白髪が混り、決した疵には皺が目だつ好々爺になって来ました。

古の硬派系あり、軟派系あり、スポーツ系あり、文化系ありの多士済済(?)の同期生が、春と秋の年二回、幹事持廻りで一層の親睦を図り、旧交を温めています。

何せ当番幹事が自分の好みと都合で日時・場所を決めるので、会場は横浜だったり、池袋だったり、上野だったり、又居酒屋風だったり、料亭風だったり、中華風だったり、それでも殆ど毎回全

員集会で、バラエティーに富んだ場所と料理で再会の歓びを分か合っています。

抑も、平成四年秋、何となき気の合った仲間七名が久しぶりに有楽町で落ち合って、話が佳境に入ったところで会の結成となり、再会記念場所の有楽町と67期卒業の文字を入れて「67友楽会」と名付け、小じんまりとスタートしました。

現在では朝比奈、稻川、岡村、小沢、梶原、川上、黒石、



黒田、小坂、小杉、斉見、鈴木(敏)、鳥居、溝口、矢部、山岡、手塚の構成メンバーです。山岡君の協力で写真(平成十一年十一月十一日の集い)にあるような会旗も出来、集いも段々華やかさを増して来しました。

三年前の春には小坂君の心配りで地元熱海の純和風旅館で、温泉に浸り、昔話に花を咲かせ、岳南健児を唱って一泊清遊旅行をしました。政治色、宗教色の全く無い(従って打算もかけひきも無い)只純粹な友情と、母校愛に結びついて、肩を寄せ合っただけの爽やかな会です。

こんな集いと前記メンバーの中に興味と哀愁を感じる同期生が居られたら、メンバーの中から、朝比奈・小杉・鈴木(敏)の三君が選出されて、静中・静高関東同窓会幹事として活躍していますので、どうぞ懐しい顔をみせて下さい。全員昔と変わっていません。大歓迎です。

静中・静高関東同窓会の更なる発展と、各位の健康、家内安全を祈ってやみません。

(手塚重明)

六八期

上州への日帰り旅行

在関東の68期生が去る十月十九日、上州への日帰り旅行を実施した。参加者は二十二人。午前八時半に東京駅丸の内口の旧丸ビル前に集合しハトバス(貸し切り)にて出発。

関越自動車道を北上して渋川、沼田、水上を過ぎ、昼頃、上越国境にほど近い湯の小屋温泉に到着した。温泉旅館「洞元荘」で懇親会を開催。各人がそれぞれの近況を報告した。年齢六十五、六歳に達し、第一の職場はいずれも定年退職し第二の職場を得て勤務を続ける人あり、悠々自適の境地に入っている人ありで、さまざまな人間模様が披露された。

懇親会のちに入浴というスケジュールで、どつぱりと温泉の情趣に浸った人が多かったが、なかには体調を気遣って飲酒後の入浴をひかえる人も出て、やはり高齢者の仲間入りをした世代ならではの「斑ら模様」が見られた。

湯の小屋温泉は谷川岳にはど近い山間地で、水上や湯檜

曾に連なる奥上州温泉郷のなかにある。期待の紅葉はイマイチだった。帰路には奈良俣ダムで下車し、本格的で巨大なダム・サイトを見学した。

帰りのバスのなかでは、夏の甲子園大会で大活躍した静高野球部の話題で盛り上がり、昔懐かしい応援歌や道遙歌の大合唱となった。ただし甲子園のアルプススタンドでは、旧静中時代の応援歌はほとんど歌われず、新しく作詞作曲された応援歌が歌われて、高齡のOBたちは大いに戸惑い拍子抜けしたとの報告談も聞かれた。

関越道を走るバスの車窓から眺める夕暮れの関東平野の情景は、感動的なまでに美しかった。午後七時半、ハトパスは無事丸の内に到着した。

68期在関東の幹事は大川庄治君、雨宮明生君、荒谷じつ子さんの三名が務めてくれたが、このうち大川君はこの旅行をもって退任し、代わりに吉崎英輔君が新しく就任することになった。

うなビジネスマンもいて、車中、彼のスリルに富んだ海外土産話を聞くことができ、また、夫人に先立たれてなお、自立の気概に燃え、プラス志向で生きる佐怒賀洋平君の気丈な体験談も聞かれた。単なる物見遊山の旅でなく、往時を懐かしみ、人生の味わいについて語り合う、文字通りの「熟年旅行」であった。幹事諸氏のご多勞に感謝したい。(鈴木俊彦)

静中・静高テニス部 関東OB会

67期 児島 英男

平成11年10月30日(土)、明治神宮外苑のテニスクラブに集まり、往年の腕を競い合った。

清水汪氏のいつもながら若々しいプレー、初参加の諸田実氏もその巧みなロビング攻撃には皆、いささか手を拱いた。柳沢学氏、大地不二雄氏、山中博氏の諸氏は腕も衰えず、美しいフォームでプレーを楽しんでいた。夜は、神宮外苑前のメ



トロ会館で懇親会。会の始まる前、児島より山田幸作先輩(54期)の一周忌の法要が、去る9月6日に横浜で行なわれ、岩井平一郎氏(57期)と一緒に参列し焼香して来た旨の報告をいたし、宴会に入った。

静岡より参加の柳沢学氏から静高テニス部の活動状況等の現役の話、立花雅一氏より最近はお様はじめ、御息一家でテニスを楽しんでいる話、笠井耕一氏から次回は体調を整えて是非プレーに参加したいとの話があり、お酒とカラオケですっかり学生時代に還

り、楽しい一タを過ごし、又の再会を誓って散会した。

当日の参加者：清水汪(59期)、諸田実(61期)、児島英男(67期)、立花雅一(68期)、

△静岡だより①▽

一九九九年——甲子園連続出場という快挙で締めくくった記念すべき年であった。

二十一世紀にむけて、確固とした足掛かりを得たことになる。

新チームに対する期待は、大きい。しかし中心になる部員が育つまでは、試行錯誤の繰り返しである。

鈴木監督は、夏本番を射程に入れたチーム編成を、今年の対静商定期戦で試みた。

スターティングメンバーを三年生主体で組む。回を追うごとに不安材料が出てくる。一挙に五点取られた中盤には、

今夏も甲子園で高らかに校歌を！

野球部はもとより、教育活動や部活動など母校の発展に期待し、皆で後援しよう。

柳沢学(68期)、増井良敏(68期)、羽生尊司(68期)、笠井耕一(69期)、大地不二雄(70期)、川端正良(70期)、山中博(73期)、成岡和美(86期)。

チームリーダーの不在が表面化する。そしてめまぐるしいばかりのメンバーチェンジ。結局潜んでいたチーム全体の結束力の不足が、あらわになった。

4月29日(焼津球場)
静岡 00000012115
静岡商 100005100X7

この苦境をどう乗り越えてゆくかに、今年のチームの課題がある。予期せぬ出来事が起こるのが夏の長丁場の常。そのためには、日頃から意識して、「危機予知能力」を高める練習が必要だ。

その成果を期待しよう。
法月郁雄(67期)

回想・随感など

世紀末の追憶

43期 西沢 純三

西暦一〇〇〇年三月三十一日、北海道の有珠山が二十三年ぶりに噴火した。またその前の一九四三年（昭和十八年）には噴火して一夜にして昭和南山が形成された。日本列島は太平洋プレートと西端に沿って二十度半の傾斜線上に位置しており、世界一の火山国である。昭和十八年の有珠山噴火に続いて、昭和十九年十二月七日南海大地震が発生した。東海道本線は浜名湖鉄橋附近が大破して不通となった。戦時中のため地震の被害については殆んど報道されなかった。この地震も太平洋プレートのライン上で有珠山地震に連動していたものである。

有珠山の活動に続いて二〇〇二年に遠州灘・北海道沖・四国沖方面の地震が予測される。特に来年四月に南米で日蝕があり、反対側に位置する日本にも太陽・月の引力の相乗効果が影響するので警戒しておく必要がある。昭和十六年十二月八日、日本は真珠湾奇襲に始まって米・英に宣戦を布告し、太平洋戦争を始めてしまった。

私は東芝の川崎市小向工場で二〇耗高射機関砲用薬莖の製造を担当していたが、月産十萬個を達成していたので昭和十七年四月に新たに始まった米国IBM社の統計会計機を担当することになった。

横浜市山下町にあった日本ワットソン統計会計機株式会社（水品浩社長）が敵国財産として大蔵省の管理下にあったのを東芝が運営することになり、同社を接収して新たに日本統計機株式会社が設立された。IBM機器の修理、整備、部品の製造、研究設計、試作は小向工場で行なうことになった。

続いて南方より戦利品としてIBM機器が搬入されて、これを整備して参謀本部、軍令部に納入した。彼等はIBM機を使用して暗号解読を生懸命にやっていた。パンチカード用のカードの印刷も小向工場で印刷していたが用紙は三島の特種製紙、富士宮の日本三極工業、静岡の安倍川製紙等から納入されたが、用紙の確保には苦労した。

日本統計機株式会社は運営も順調に行なわれていたが戦争は次第に激しくなってきた。昭和十九年十一月一日、当時目黒の海軍大学校内にあった軍令部に早朝より出張していたが始めての空襲警報が発令された。B29が唯一機だけ一萬メートルの高度から航空写真を撮っていった。

を破棄して対日宣戦を布告して満洲・北鮮・樺太・千島列島を制圧してきた。日露戦争の恨みを込めての破竹の勢いで北満を進撃して、亜細亜艦隊、水上飛行艇を用いて旅順港には八月二十日に入場して来た。私の母校旅順工科大学も接収されてしまい、悪質の囚人部隊が先頭で略奪暴行も発生した。海軍要港部、陸軍部隊も施設も接収されてしまい、隊員は使役に従事していたが最後にはシベリア送りになってしまった。一般市民も市内から大連方面に追い立てられて荷馬車、トラック、列車等を利用して旅順を去っていった。引揚げまでは本当に苦難の時代であった。

八月十五日日本はポツダム宣言を受諾して無条件降伏して「戦争終結の詔書」が放送された。日本人は暑くて長い一日を迎えることになった。

八月二十八日米国の第一陣部隊が厚木飛行場へ到着し、連合国最高司令官マッカーサーは八月三十日厚木飛行場にパターン号で到着した。

九月二日横浜沖のミズーリ艦上で重光葵外相が降伏文書

に調印した。丸の内の第一生命ビルに占領軍総司令部が設営された。空襲で丸の内のビル街を残したのも占領後のことを考慮していたのである。

戦時中から戦後まで私はIBM機器を担当していたが、昭和二十四年四月一日マッカーサー命令で返還した。これが基礎となって、今日の日本IBM会社になっている。

戦後米国IBMのワットソン社長が東芝に来社され、この戦時下にIBM機器を良くも温存してくれたと感謝してくれたが、流石は民主主義の国の経営者であると思った。初代の社長は水品浩氏が就任している。

東芝も戦後は民需に戻り本来の業務になった。私は事務機器を担当していたので、新たに各種タイプライター・計算機・加算機・金銭登録機等を開発していた。

進駐軍からは占領政策に対する資料作成に英文書類は一日で完成するが、日本文書は二三日掛かるので日本の事務能率改善が取り上げられてきた。彼等の要求は公用語の英文化であった。東京商工会議

所が幹事役となり、学識経験者、事務機メーカーより委員が出て事務能率改善委員会が発足した。

GHQ・CIE言語課よりの要求に対して審議を重ねたが、英語、ローマ字、カナモジが不採用になり、結局漢字制限、簡略文字、新仮名づかいということに落ち着いた。

その後委員会も日本商工会議所が幹事を担当していたが、文部省に移管されて国語審議会となり、当用漢字千八百五十文字、新仮名づかいとなった。コンピュータ時代の到来で昭和四十五年まであった事務能率改善委員会も解散した。

最近井上ひさし著「東京セブンローズ」(文芸春秋刊)が発売されて「日本語を救った女たちの物語」——CIE委員等と日本女性との物語となっているが、舞台は主として帝国ホテル等であった。

我々が苦心した結果が日本語を救ったと確信している。日本の新聞社も横書きを要求されたが多額の経費が掛かってでも発行部数は同じであり猛反対であった。新聞は未だに縦書きである。

静岡の万葉を歩く

(その二十)

51期 原崎 郁平

榛原郡御前崎町の白羽海岸近くの道路沿いに万葉歌碑が建っている。御前崎灯台から海岸通りを西に向かって数キロメートルほど行った所の右側に聳えるように建っている。

遠江 白羽の磯と

賛(にへ)の浦と

相てしあば 言も通はむ

(巻二十一 四三二四)

昭和五十五年九月十八日建立 鈴木忠雄揮毫

大きさ……高さ百五十五センチメートル、幅二百三十五センチメートルの自然石である。

歌の大意は「私の住む遠州地方、この御前崎の白羽の磯と賛の浦が、近くにあってならなあ。そうしたら話はずむのに」

向かって左側の説明文。

「万葉歌碑 昭和五十五年九月十八日建立 白羽の磯の歌は万葉集二十巻に収められている。作者は丈部川相(はせつかべのかはひ)、現在の袋井市北部一帯の山名郡の人で



ある。今から千二百年前の天平時代の一防人の短歌で、防人とは筑紫防衛のため東国から派遣された農民兵士たちで任期は三年、守備と農耕に従事した。御前崎町教育委員会「白羽の磯」はその所在地を巡って多くの説があり、御前崎町立中央公民館には諸説をまとめた文献がある。「加茂真淵は『遠江歌孝』の中で御前崎の白羽を採っています。が、この中で磯という言葉に該当する所は御前崎の海岸以外にはないようです。榛原郡

地頭方村枝郷御前崎の明細差出帖の狐浜の項に『字志留波の磯 一、狐浜長三千二百五十四間三尺一ヶ所 但、南方白羽村境ヨリ折廻シ北方同村村境迄』と記されています。

これは白羽村と合併前の、旧御前崎村の浜全体を指していますが、古くは白羽官牧の範囲であったと考えられる北は相良と境する地頭方から、西は筏川に至る磯全体を呼んでいたとも考えられます。

ここに出てくる「地頭方」

は小生の祖父の出身地である。従って小生の菩提寺は地頭方にあり、将来小生の遺骨はこの地の「孤雲寺」に納められることになる。昔は榛原郡地頭方村だったが、その後、相良町と合併し現在では相良町地頭方となっている。小生は菩提寺が東京から遠いため、数年に一度しか訪れないが、静岡市から静鉄バスで御前崎行きに乗り1時間以上かかって到着する。寺は町の北の丘の上に建っており、高い石段を息をはずませて登ってゆくと、次第に視界が開け遠州灘を一望に見渡すことができる。幼い頃、今は亡き父親の手

に引かれて寺を訪ねたことが思い出される。小生の祖父は遠州で製茶会社を起し、その後静岡市に移した。この会社は現在の静岡市北番町所在の富士製茶株式会社である。

小生は遠州菊川町で生まれ静岡市で生育したので幸い静岡県立静岡中学に学ぶことになり、こうして同窓会の一員としてお付き合いをしていた。

最近思うこと

54期 安東 哲夫

私は昭和十三年十二月、静中五年生の中で陸軍経理学校予科の入学、同十七年三月同校本科を卒業。最初の任地は福知山歩兵第一三五聯隊で、ここで陸軍主計少尉に任官、翌十八年八月主計中尉に進級と同時に在ビルマ野戦重砲兵第三聯隊付となり、インパール作戦準備中の部隊に赴任、第一大隊付主計となる。

翌十九年三月八日インパール作戦発起、作戦途中五月一日付で第十五軍経理部部員に補され、翌二十年六月軍司令部はタイ国に撤退、六月主計大尉に進級、タイ国ランパン

に於て終戦、ナコンナヨークで抑留生活約十ヶ月、二十一年六月浦賀に上陸、復員、静岡へ帰着。二十三年十一月結婚。

二十四年四月勝呂組に入社、三十七年十月会社は別子建設と合併住友建設となり、東京本社勤務となり、理事・検査役を経て六十年一月住友建設を退社、東洋テクノ株式会社勤務、平成元年十二月同社退職、同二年一月より宗教法人阿吽阿教団事務局長として勤務、現在に至る。

さて昨今のわが国の情勢をみますと、政・官・財並びに教育面に於て憂慮すべき事態が少なからず、国の防衛問題も緒につかず、従ってわが国の威信の恢復も期待しえず、このままではわが国の将来に危惧の念をいだかざるをえない現状と思われまします。

私は右記のインパール作戦中は主計将校として、部隊のための食糧の調達・輸送が最大の任務でありましたが、ビルマの人々は最後まで協力を惜しまず、結果的には彼等に多大の迷惑をかけたことになったわけで、これに対し何等か

の形で感謝の気持を表したいと思い、誠にささやかではあります、ビルマの日本留学生の里親として支援を続けているわけでありまします。

そのような関係で「アジア学生文化協会」から機関誌が送られてきており、その四月号に次のような記事を見て、少なからずショックを受けました。それは「異邦人の目に映る日本の若い世代」だじょうぶか日本人」と題した韓国留学生の手記です。即ち、

「私は人との付き合いが好きで、色々と日本人の交流グループへ参加した。しかし日本の若者とは友達になりにくく、友達になっても話が通じにくい。それは留学生の多くが母国の更なる発展のためのことや、自分の成長のための興味や関心が高いのに、日本の若い世代の場合は将来よりは楽しい今に大きなウエートを置いているような気がする。経済的に裕福な生活に馴れて、「やる気」「気概」を持ちにくくなっているようだ」

とのべているのです。私は今の若者達が全て彼の言うような人間であるとは信じないの

ですが、そのような若者が少なくないことも事実であるように思われるのです。

このような若者の意識と最近の若年者の凶悪犯罪を含め、更に政・官・財界の腐敗は何処に原因があるのでしょうか。私は戦後米国の日本に対する占領政策である日本弱体化政策に原因があるように思うのです。即ち青少年に対する教育から道徳教育を奪い、国の伝統文化を否定して国に対する誇りを喪失せしめられたからであると思うのです。しかも昭和二十七年四月二十八日、サンフランシスコ条約発効によりわが国が独立を回復した後も、憲法とともに「教育基本法」について五十年にわたって一切手をつけず今日に至ったことは驚歎に値すべきことと思う次第です。

しかし昨年は「国旗・国歌法」が成立し、又衆参両院には「憲法調査会」が設置され、政府としても「教育改革」を政策の重要課題として取り上げており、「新しい歴史教科書をつくる会」も、誇りある国づくりをめざす「日本会議」もともにその組織が全国的に

拡大され、その活動も活発化しており、「教科書採択」の方法を正す運動も着々と成果を上げており、昨年十月刊行された「国民の歴史」(つくる会会長西尾幹二著)は六十万部以上が読まれており、「つくる会」による中学校の歴史ならびに公民の教科書も既に完成を見、文部省に検定申請される予定であります。又前記の「つくる会」並びに「日本会議」の諸会合には何時も会場に溢れる人々が参集されますが、参集者の年齢を見ますとその殆どが若い人々で占められております。

その他私はビルマ英霊顕彰会が主催する、日曜日に靖国神社の社頭で行なう靖国神社国家護持の広報活動に参加しておりますが、ここでも英霊に対する宗教の念の篤い若い人々に接する機会が多く、わが国の将来に対し頼もしき限りと感じる次第であります。

わが国の歴史を繙いてみますと、国民の国家意識は高揚された時もあり、然らざる時もあります。只今の社会情勢より見て現在の国民意識は低迷していると言わざるをえま

せん。しかし前記のとおりその原因の一つである教育改革については、前途必ずしも平坦ではありませんが、曙光を見る思いがするのは私一人ではないと思います。

かくて二十一世紀においてはわが国は必ず発展し、世界において存在感を示し続けるものと確信し、私共一人一人努力して行かなければならないと思います。

「あべかわ」駅

61期 稲森 慎二

六一期の同期会に出席する我々三人は、S君の自動車に乗って東京を昼頃に出発した。今日は四月八日で「花祭り」。富士川のパーキングエリアは青空の下、桜が満開。桜の縁の中に富士川の流れと頂きの白い富士山が程よくおさまった場所に立って、S君は写真機を持って来なかった事を惜しむ。正に駿河の春爛漫そのものであった。

町なかのホテルに泊るのは味気ない、次の朝は春の海辺でも歩こうよと、先ず、S君がおなじみの用宗海岸の船宿に車をつけた。そして三人は

大変久しぶりにローカル線で用宗から静岡に向ったのだ。

S君は用宗からの汽車通だったので「オレ達の頃は一時間に一本位だったのに今ジャー十分おき位に走ってるわ」と驚いたり、「アツ巴川製紙の煙突が見える、なつかしいな」「こんなに家が出来ちゃったが、昔は梨畑が広がっていて、真白い花がきれいだったね」等と窓外を眺めながら話し合っているうちに、電車は「あべかわ」駅に停まって又走り出した。「そう言えば、あべかわ」で駅が出来たんだね」と言い出した頃から話は一寸変テコになつて来て「今停まったのが、あべかわ」だよ。駅があった？ 何だかホームがつり上つていたみたいで、変な駅だったね」と言い出したのはY君。「あべかわ」駅に対しては大変失礼な話ではあるが、そう言われるとS君も私も申し訳ないが、はつきりした駅のイメージが浮かんでこない。なじみが薄いというだけでなく一寸空をつかんだ気持、そして電車は今度はなじみ深い安倍川の鉄橋を渡って静岡に着いた。

ホームに降りたとなん、S君が「しまった、オレ、車のスイッチを切つて来るの忘れた。暗くなるど電気がつきっぱなしになつてバッテリーが上つてしまう。どうしようかな、いいにしようかな」と迷い出した。時計を見ると時間はまだたっぷり。「十分おきに走っているんだから戻つて来ようかな」と言い出した。「そうだよ、もう一度皆で戻つて、あべかわ」駅を見てこようよ」ということになり、物好きな三人の老人は再び下りの電車に乗りこんだ。

よくよく見た「あべかわ」駅は我々が頭にしみ込んでいた昔ながらの田舎の駅ではなかったのである。静岡のベツドタウンとなつたこの地に出来た新駅は「何だかホームがつり上つていた」と言うY君の印象通り、つり上つたホームの下は駐輪場になつていて、この駅を使う通勤者の自転車なのである、整然と並べられていた。そしてホームに昇つて来る階段も、何だか歩道橋みたいな感じである。待合室があつて、改札口があつて、黒い服を着た駅員がいて、と

いった駅舎の面影は全く見当らぬ、極めて軽量で機能的な駅だったのである。

子供の頃から頭にしみついた我々の安倍川と余りにも違うイメージに、三人は「昭和は遠くなりけり」の一抔の淋しさを感じたようである。と思いながらも戻りついた用宗の駅もよくよく見なおせば、我々がかつて見慣れた煤煙でうす黒くなつた駅舎はもう無く、明るく一寸レトロ調の建物に変わつていたのであった。たわいのない旅のエピソードにはすぎないが、ほんやりしている世の中にどんと置いてきぼりにされてしまうぞ、そう思ったことではある。ところでもう一つ落ちがある。

我々二人を用宗の駅のホームに待たせて、汗をふきふき戻つて来たS君がニコニコした顔でこう言つた。「儲かった。改札口で忘れものをしたと言つたら、切符はそのままでいいですと通してくれたよ。だから静岡っていいんだよね」

追 悼

満間 猛君のこと

60期 堤 崇



11年4月25日逝去

変っていった時代だった。

昭和十九年十月、ともに江田島の海軍兵学校に入学し、一年弱の短い期間だったが、海軍独特の猛訓練を体験した。終戦、復員。そして満間君に再会したのは、静岡同期の鈴木達正君が中心になって再建された旧制静岡高の蹴球部だった。戦後復活第一回のインターハイを目指して練習が始まり、この年は、芋畑になっていた

グラウンドが、なんとか整備はされたものの、満足な練習も出来ず、一回戦で浦和高校に敗退してしまった。

しかし、この敗戦でチームの闘争心に火がついたのか、翌年は夏休み一杯、草薙合宿の猛特訓を行い、秋のインターハイでは、浦和、武蔵、松江、二高を連破して、決勝戦で強豪広島高校と対戦することになる。

当時のメンバーは、キャプテンの鈴木達正君をはじめ、チーム十一名中七名が静岡出身者で、さながら静岡のOBチームの観があった。

満間君はキーパーで、準決勝まで四試合、無失点でゴールを死守した。決勝戦は、残念ながら広島に延長戦の末惜敗したが、満間君にとっても、私にとっても、正にわが青春に悔なしであった。

満間君は、その後、名古屋大学の理学部を卒業、通産省に入省されたが、請われてソニーに入社、研究者としての道を歩まれた。

先日、一周忌を前に横浜郊外のお宅にお邪魔し、奥様にお目にかかる機会を得たが、

その時「本当に子供達にも、私にもよくしてくれました」と目をうるませておられた。そう言えば毎年行われる海軍兵学校の同期の集りには、必ず奥様を同伴されたし、好きなゴルフも、よく奥様と一緒に楽しんでおられたようだ。

私もよくゴルフはご一緒したが、彼といるときはいつも一種の安らぎを感じることが出来た。これは何よりもまず、満間君のおおらかな人柄によるものだろうが、彼の言葉のしほしほに出てくる、静岡育ちの人間にはなんともなつかしい静岡なまりが、幼なじみの心安さと呼ばえますまいかもしれません。

成岡君、君に会いたい

67期 小坂 博

成岡英彦君とは、戦時下での汽車通仲間以来、彼が亡くなる直前まで、50数年もの間、実に親しくお付き合いさせて頂きました。

早大卒業後、清水建設にて活躍し、その後自らユニオン設計を起し、才能とセンスを駆使した業績を数多く残しました。その精力的な仕事ぶ

りは、常に同級生の間で話題になるほどでしたが、一転、遊びの達人でもありました。特に音楽に詳しく、カントリー歌手のジミー時田氏、スチールギターの太塚氏とは、ファンの域を越えた親交を持ち、晩年の灰田勝彦氏とも、よく一緒にゴルフを楽しんで



12年1月20日逝去

いました。私達をオーバードライブしたときの、灰田氏の笑顔、君の大声など、昨日のことのように思い出されます。ま、ゴルフに関しては、Bクラスだったかな。一度だけハーフで私に勝ち、子供のよう喜んでいた様が懐かしいです。ディック・ミネ氏と「ダイナ」「旅姿二人男」を歌ったときも、この上なくご機嫌で嬉しそうでした。

酒量で君に並ぶ同級生がいるだろうか。関東同窓会、江の島会、67期会と、そこにはいつも水割りやグイグイやりながら、大言壮語する君がい

て、仲間の拍手や賑やかな笑いを呼んだものです。

闊達で小事に拘らない男らしい性格は、静岡・早稲田で学んだ進取の精神と、教育者ご一家の長男として、ご両親の心からの愛情に育まれた賜物でしょう。先日、仲間が集まって、君を偲ぶ会を持ちましたが、その席に、永きに亘って、やんちゃで暴君(?)であった君を支えて下さった和美さんが、君のアルバムを持参されたのです。

まだカメラがそれほど普及していない時代に、こまめにスナップ写真を撮り、アルバムに貼り、父上は君の一挙手一投足を書き綴って、成長ぶりを記録されていました。同期の山川静夫君の父上も、彼の成長日記を付けておられ、それらを目の当たりにしたとき、感動しました。少年の犯罪が世の中を騒がせている昨今、若い父親諸君に、成岡君や山川君の父上のような寡黙で奥深い愛情を切に期待するのですが、いかがなものか。話がそれてしまいました。成岡君、もう一度会いたい。君に会いたいよ。

平成11年度 会費抛出色

平成11年4月1日～12年3月31日

(順不同、敬称略、寄付金を含む。
年会費三千円、拠出の方は、数字の
記載はありません。)

- 52 綾部立一、岩本良雄(2)、大
草知久、川島喜八郎、佐藤昌
武、田中貞司、直原澄衛、服
部雅雄(6)、茂呂茂樹
- 59 青木静男(9)、青山 勇、伊
藤光雄、磯部 一(2)、内田
武男、内田武二、小澤武彦
(2)、小澤将男、小花敏郎、
大村和夫、奥沢 徹、加藤恵
- 64 浅井幹夫、岩本吉雄、遠藤
栄(6)、神谷武男、狩野達彦
(4)、栗田行雄、桜井富士男、
- 51 伊藤眞吉(4)、佐伯正剛、鈴
木孝雄、田中賢一、寺尾利男、
永井五一郎、難波悦朗、原崎
郁平(6)、森 弘、渡辺 功
(6)
- 58 伊藤健三(6)、海野 進、奥
野 広(6)、加藤 久、島村
悟(2)、鈴木榮三(6)、須山
静夫、宮崎佐一郎、望月恵一
(5)
- 62 川手生巳也(10)、三枝弘之、
柴田有年、高田桂造、横井
- 50 江川友治、田中 誠、丸尾文
治
- 57 岩井平一郎、岩柳順二、影島
利邦(18)、加藤健三(5)、久
保田誠三、坂田秀雄、島根光
明、杉山正友(2)、高橋禮久、
富田 澄、望月 修、山中孝
二、月見里礼次郎(6)
- 61 青木邦彦、稲森慎二、宇都宮
道和(6)、大石次男、大村富
士男、奥野泰助(6)、片桐
篤、君島敏男、黒川泰三、清
水照彦(6)、清水澄夫、芹沢
博樹、相馬 孝、高村岳史
(6)、高山秀男(6)、竹迫友
一、中尾 昭、仲野辰男、西
田駿之介、萩原将弘、花見
久、濱田茂明、八木貞二
- 67 池智策、山下裕一、湯浅 謙
朝倉 勇(2)、朝比奈正三、
稲葉昌弘、遠藤一彦、大石脩
而、大森恵吉、岡村英二郎、
梶原由三、河口正義、黒田秀
幸、小坂 博、小杉謙一(6)、
小杉 弘(6)、児島英男、塩
澤 満(10)、鈴木敏行、手塚
重明、戸塚惣雄、鳥居滋夫、
長倉孝三、成岡英彦(8)、福
- 49 嶋 三四郎、菅沼 栄(10)、
(6)、山岸 聰
- 48 青木 香、伊藤重久(6)、黒
水高典、近藤希賢、原崎進一
(6)、山岸 聰
- 47 田中達夫(6)
- 56 青木良文、伊藤卓爾、奥野
進(6)、清水逸郎(6)、鈴木
源一(6)、原田昇左右(10)
- 46 篠原 清、杉本義明、丸杉孝
之助
- 55 相川富士雄、小沢忠樹、中野
治良、長澤榮一、法月重雄、
日比光明、堀江重遠、松井保
治、峰田 陟(5)、山下武男、
驚巢英策
- 66 飯塚二郎、石川隆亮、石川創
二、内田幸雄、大坪信之、大
村敏夫、加藤 昭、川合 勉、
河守輝雄(6)、小嶋清司、小
杉雅宏、小林五郎、小林成敏、
関本和男、田中俊男、戸塚純
一、中村伸吾、長倉良平、西
田尚史、浜田裕志(2)、原野
谷朋司、藤原朝則(6)、藤原
隆二、馬淵逸明、馬越 峻、
増井和夫、三原 載、武藤
勇、村越立彦、村松武司、安
池智策、山下裕一、湯浅 謙
- 70 有田 久、井田勝久、石山
博(6)、大高源之丞、大地不
二雄、大場良臣(2)、片山智
司、桔梗昌枝(4)、久沢正雄、
北村 孝、小山清継、佐々木
政之、坂本 康、白石通子、
鈴木明次、清 智(6)、関
哲男、大長 智、富田三樹
(6)、中村龍二、野田卓男
(2)、牧野 甫、松浦洋一郎、
松永 茂、宮代省一、宮本達
司、村松勝治、山本正夫、吉
- 45 蝦原一郎、鈴木弥門、田附敏
三
- 44 高橋真一
- 43 北里良夫、倉澤榮吉(6)、長
戸寛美(6)、西沢純三、三宅
静雄、柳沢保雄
- 54 安東哲夫、居初良雄、大畑忠
夫、大藤直久、佐野圭司、柴
崎芳三、渡辺武男
- 60 井田 淳、石関忠雄、上杉重
吉(6)、大石隆一、等間達男、
君島康弘、黒田武之助(6)、
小林金次(6)、酒井美高、新
間昌輝、鈴木光男、堤 崇、
時田正康、内藤敏夫、野沢栄
司、萩原莊太郎、原善三郎、
逸見昭三、益田要一、山崎鏡
次(2)、山路敬三(2)、山本
正三(6)、渡辺 博
- 68 原亨一、牧田仁男、増田安国、
松岡 健、丸山英久、美濃一
朗、溝口淑郎、向井久和、矢
部 隆、山岡 進、山川静夫
秋山和也、雨宮明生、荒谷じ
つ子、市原 卓、稲葉 清、
岩瀬順郎(6)、宇田貞子、江
崎善三郎、大石康博、大岡功
忠、大川庄治、河口 浩、栗
田瑞夫(2)、小林功典、酒井
定子(6)、杉山忠男、鈴木俊
彦、瀬堂川徹、田中英夫、高
橋俊見、塚本浩司、萩原(多
賀男)ハツコ、林 明宏、星
野敏郎、増井良敏、松下司郎、
望月芳朗、吉崎英輔
- 53 小野一夫、片桐鎮夫(2)、木
宮高彦、三枝正裕、志田寿一、
徳永悠久、橋本久仁寿、松前
新太郎(6)、宗像 醇(6)、
望月 昂
- 63 佐藤弘幸(5)、佐野 旭、鈴
木明郎(6)、田中 耿、竹内
豊、塚本光彦、長島 健、仲
野 実、永田進一、名波倉四
郎、野沢正憲、長谷川直和、
馬場泰男(5)、蛭川博之、益
頭尚文(6)、増田誠男、増田
政雄、松下一男、村上喜代一、
望月康逸、八木綱三(6)、柳
田 堯、山本和彦、渡辺宏一

73 青木俊一郎(6)、赤木政夫、有光一郎、安藤頼男、飯田征四郎、池ヶ谷章、石川征四郎、石川博己、石川八洲夫、石割浩司、遠藤 聰、大石堯史、大村康平、大村春樹、大村博、奥村至朗、桑原敏久、後藤孝子(6)、小柳忠義、小山武夫(5)、近藤 守、佐々木勝彦、三枝通康、榊原由之、塩津 浩、柴山欽伍、清水純、杉山正三、杉山親司、杉山光、杉山洋司、鈴木千秋、	72 石川正明、今泉 烈、陰山勇一、櫻井正之(6)、高木哲夫(6)、田中敬二(2)、種茂雅之(6)、夏目雅之、仁藤宏次、野崎誠介、花田守弘(6)、深田 均、増田欽一、丸山安彦(2)、山口公子、山田 勝(2)	71 田 修(6)、渡辺勝美、青木庄二郎(6)、安藤龍男、伊藤 勝、梅原孝允、浦田彰(6)、海野幸雄、奥村鏡一郎、片山嘉博、加藤祐史(9)、川上貢三、栗田甲子男、小池啓治、後藤弘枝、酒井 力、佐藤利治、曾根幸一、富野壽(6)、広田道男、本間啓司、村松綏啓、山崎恭弘、渡辺敏美	70 鈴木 豊、鈴木良明、遠山敦子、富田彬道、中川明久、仲川信正、中西英一、西本昇平(9)、原崎幹雄、羽山 武、深澤靖男、伏見 忠、牧野昭雄、松下勝朗、松永文夫、三浦英夫、望月 智、望月公美、山崎智弘、山下茂支、山中博司、山梨由記、山本一雄、渡辺雅俊(6)
78 浦位通(6)、山内幸太郎、縣 保佑、石川暢子(11)、奥山和子(6)、白木桃子(2)、鈴木藤男(8)、次田 肇、永	76 池田哲郎、伊藤哲治、北川博昭、坂内三容、鈴木 浩、富田駿介、山岸誠二、相原弘明、栗野吉洲、飯田善久、石間啓一(6)、石山建一、伊藤達雄、岩崎敏宏、大岩蓮、大村信子、神戸絃一、栗田取司、小池淳夫、小長井幸、後藤嘉代、清水雅尚、三	74 稲葉一字、井出宏嗣(2)、井鍋正良、角谷治子、熊谷敦子、近藤豊美、佐藤鐘司、佐野捷造、田中佐知子、塚本 豊、寺尾純彦、中西恭二、中村牧子、西山 肇、野々田昶、萩原茂春、正田琢也、松下晴一、今田 肇、大島崇志、佐藤修二	79 井昌義、垣生尚敬、須川恒次、小木哲朗、鈴木 勝、吉田伸一郎(5)、芝山公彦、嶋田政子、鈴木真男(6)、松永 旭、青木興治、鈴木としえ(6)、中村孝昭(2)、堀内淳司(2)、橋本幸雄
96 ナシ	89 伊藤靖郎(9)、鳥巢 修、新村暢宏、荒井千明(6)、石村安紀子、小川修史、川島雅行(6)、スミス京子、手塚圭子、本多豊太、丸尾啓敏	85 池田幸司(8)、佐久田博司、永田 悟、牧野英敏	97 清水智人、杉山眞之、五十嵐寧、中村恭子、佐藤弘幸、佐藤友男(2)、齋藤光美(6)、大工原孝則

ひとりひとりの

ご協力を！

。総会や同期会などの会合には億劫がらずに出席し、楽しい一刻を持ちましょう。

。年会費の拠出者が年を追って減少し、さびしいことです。関東同窓会の運営も難しくなってきました。

。関東同窓会の円滑な運営のため平成12年度年会費(三千円)の納入をよろしくお願いいたします。

114 鈴木健太郎	113 吉田幸弘	112 ナシ	111 宮城島綾子	110 ナシ	109 宮城島一彦	108 ナシ
------------------	-----------------	---------------	------------------	---------------	------------------	---------------

合計 554名
1,945,000円

ご協力に感謝いたし、
本年も、ぜひよろしく！

●ごらんのように、期によって年会費拠出者の多寡の差がはげしい。幹事諸兄のお力添えを期待いたします。

同封の振込用紙で、ぜひぜひご協力ください。なお用紙は会報の毎号に年会費の納入済み、未納にかかわらず同封しておりますことご諒承ください。

宛先不明のため、会報返送が毎号多数あります。住所変更の場合至急ご一報のほど願います。

◎会報の広告掲載：年2回(2万円)にご協力をお願いいたします。詳細は事務局までお問い合わせください。

鈴 与 株 式 会 社

取締役社長 鈴 木 通 弘 (76期)

清水市入船町11-1

TEL 0543 (54) 3015 (秘書課)

京浜支社 東京都港区芝公園1-2-12

TEL 03 (3432) 7151

日本レーベル印刷株式会社

代表取締役 岩 井 平一郎 (57期)

本 社 静岡市国吉田3丁目1番1号

TEL 054 (262) 1111 (代)

東 京 中央区京橋1-1-6 越前屋ビル8F

TEL03 (3272) 4651 (代)

株式会社 富 士 越 株式会社 富士越化成

代表取締役 野 澤 正 憲 (64期)

東京都渋谷区東2-14-9

TEL (3409) 3342 (代)

TEL (3400) 9541 (代)

自動車・火災・傷害保険
比べて下さい。安く確かな保険を。

大 高 保 険 事 務 所

代 表 清 水 雅 尚 (77期)

渋谷区東3-15-8

TEL 3406-9350

PHS 070-5103-8920

同窓会で人の輪を!!

野方重人法律事務所

弁護士 野 方 重 人 (77期)

〈事務所〉

〒101-0045 千代田区神田鍛冶町3-7-3

敷下ビル6階

(TEL) 03-3251-2348

(FAX) 03-3257-0820

☎ 昼2時より夜11時まで診療 ☎

タカラ歯科診療所

代 表 齋 科 名 雄 (87期)

東横線 中目黒下車徒歩5分

TEL 0120-376480

相続税・法人税・所得税などのご相談はどうぞ!

鳥巢修税理士事務所

税理士 鳥 巢 修 (89期)

OSAMU TOSU

〈事務所〉

〒167-0041 東京都杉並区善福寺3-31-3

TEL 03-3396-3858 FAX 03-3396-3848

E-mail: tosu@mtj.biglobe.ne.jp

調剤薬局……首都圏に28店舗。

株式会社 アイセイ薬局

「医薬分業は 弊社へどうぞ」

代表取締役 岡 村 幸 彦 (93期, 応援指導部)

東京都中央区日本橋蛸殻町2-14-5

TEL 03-5643-8225

E-mail okamura @ aisei.co.jp

◎事務局へのご連絡は…

〒153-0051 目黒区上目黒2-18-13

山中ビル タカラ歯科医院内

静中・静岡関東同窓会

薬科名雄 (87期)

(電) 〇三三七九二一三五八〇

(月) 金の午後1時~8時

「会報」編集子より

○毎号バラエティーに富んだ原稿を寄せてくださる方々に、心から感謝申し上げます。

同窓会員の絆をより強くとの願いをこめて、さらにより充実した誌面になるよう、一層のご協力をお願いいたします。

○各期幹事諸兄姉のご尽力で同期会を開催し、その報告を会報にどしどしご寄稿ください。

○原稿尊重を建て前としておりますが、加筆や訂正させていただく場合もあります。その点ご了承ください。

○提供の写真について、返却の必要があるかどうか書き添えていただければ幸いです。

○原稿依頼や掲載広告について、候補と思われる方を事務局までお知らせくださいますようお願いいたします。

(U)